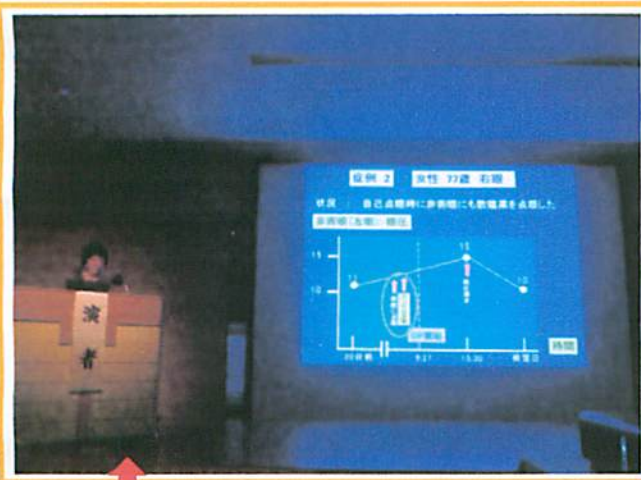


## 第27回 日本眼科看護研究会

2011 (平成 23) 年 9 月 10 日～11 日 宮崎県シーガイアコンベンションセンターで開催された第 27 回日本眼科看護研究会で当院の看護師 島野 佳奈が「狭隅角白内障患者の術前散瞳薬の点眼管理」について講演を行いました。



壇上で講演する本院看護師 島野 佳奈

左から

同行した看護部長高山、看護師奥山、島野、森下



### <発表内容の詳細>

狭隅角眼（房水の流れ出るところが狭い眼）では、手術前につける散瞳薬を誤って手術しない眼につけてしまうと、緑内障発作の危険があります。そこで、手術前の自己点眼時に手術しない眼に散瞳薬を点眼した事例の調査をしました。その結果 3% が手術しない眼に誤って点眼していました。間違えてつけたとしても、必ずしも緑内障発作を起こすわけではありませんが、眼圧上昇のリスクが高いということがわかりました。手術前から自己点眼していただくのは、退院後も継続して点眼が必要なため、点眼手技を覚えていただくことを目的としています。しかし、今後は手術しない眼に誤って点眼してしまうことを防ぐために、白内障手術の狭隅角眼第 1 眼目のみ、散瞳薬点眼をすべて看護師管理としました。

また、当院では手術後も散瞳薬点眼を 1 週間行ないます。日帰り、短期入院の場合、いかにして自宅での間違いを防ぐか話し合い、方法を検討し始めたところです。

もし、狭隅角白内障と診断されたら、白内障手術後、就寝前につける散瞳薬（ミドリン P）は左右間違えないように注意しましょう！！